



2022年も残り少なくなりました。“with コロナ”が定着しつつある中、私たちは保護者の皆様とともに感染症対策を徹底しながら新たな一步を踏み出せるよう、全職員でより良い方法を考え実践してまいりました。日常生活の延長と位置付けている「運動会」や「音楽会」も、3年ぶりに県立総合体育館や森都心プラザホールで開催することができ、子ども達は、日ごろから積み重ねてきたことを友だちと一緒に笑顔で、自信を持って発表していました。それまでのプロセスにおける健康管理や励ましに加え、当日、大好きな保護者の方々から“頑張ったね”の気持ちを込めて送っていただいた沢山の拍手は、きっと子ども達の心に染み渡り、新たな挑戦のエネルギーとなったことと思います。

この一年、私たちが「安全」に過ごすことができましたのも、保護者の皆様をはじめ園生活にかかわってくださった全ての方のご理解とご協力のお陰と心から感謝いたしております。本当にありがとうございました。今年の一步を基に、来る兔の年は更に飛躍的な一步が踏み出せますよう、私たちは歩みをすすめてまいります。引き続きご協力の程、お願い申し上げます。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

子どもの“気づき”を自発的行動に！

私たちは日々の生活において、子ども達の様々な“気づき”に出会います。その瞬間、とても嬉しく心が温くなるのです。以下はそんなひとコマのご紹介です。

ある朝、登園してきた年長女児が手指の消毒をしないまま園内に入ろうとしたため、通用門に立っていた私は「わすれものはないかな？」と言葉を掛けようとした。（「消毒をしましょう。」とストレートに伝えるのではなく、子ども自身が自分で気づいて行動に移してほしいとの願いから、学年によってこうした言葉掛けをしています。）

その直後、自分で消毒液のところへ行き、消毒を済ませた女児に対して、私は、「よく気が付いたね。」と認めの声掛けをしました。すると、女児は次のように答えたのです。「おかあさんとタッチしたときに、おかあさんの手が濡れていたから・・・」。とお母様と分かれる際、握った母親の手の感触から、女児は自分が消毒をしていなかったことに気づいたというものでした。その際私は、自ら気づくことが自発的な行動に繋がることを再認識し、今後も保護者の方と共に子どもが自分で気づき、考え、行動できるようなかかわりを続けたいと思ったことでした。



ドッジボールを通して、「投げる力」がついてきた年長組。また、ボールから逃げるスピードも速くなり、身のかわし方といった「俊敏性」も、遊びを通して培われています。



「せんせい、おうちの花が咲いたよ。」と地域交流活動で家庭に持ち返した菊の花のことを話題にくれた年長女児。それを聞いた私は、坪井川遊水地公園に菊の苗の生長を観にいきましたが、残念ながら花はまだ蕾のままでした。ご家庭ではきっと『水やり』とともに「がんばって、きれいな花をさかせてね。」と毎日声をかけてくださったのでしょうか。その気持ちに応えてくれた菊の花。引き続き生長を見守ってくださいね。



ボール1個にたくさんの子ども達。なかなかボールに触れないお友だちも出てきますが、子どもから自発的にボールを友だちに渡す姿が見られ、良好なコミュニケーションに繋がっていることを嬉しく思います。“ボールに当たったら外に出る”等、ルールを理解して楽しむ年長さんの様子が、自然と翌年の年長組に伝搬しています。

<編集後記> 『3つ子の魂100まで』と言いますが、幼いころに身に付けた習慣が、自分の命を守ることに繋がっていると実感することがあります。私にとってのそれは、バスのステップを降りる際、必ず後方を見てから足を地面に下ろすということです。ほんの一瞬の動作ですが、後方から来ている（かもしれない）自転車等から自分の身を守ることに繋がっています。両親をはじめ幼いころ私にかかわってくださった方々の教えと有難く感謝しているところです。

「安全＝命を守ること」に関しては、様々な場で具体的にお子様と話し合い、繰り返し実践していただくことが何より大切です。“それはなぜ？”を子ども自身が理解し、大人がいない場所でも自分で判断し行動ができる『安全習慣』として身につくよう、今後も保護者の方と一緒にかかわっていきたいと思っています。

【子育て相談支援員：北村】